平成 29 年度
宇部市ジュニアグローバル研修
派遣報告書

オーストラリア・ニューカッスル市

平成 29 年（2017 年）8 月 2 日～8 月 11 日

目　　次

◆　派遣者名簿 …… 3

◆　研修日程 …… 4

◆　派遣日程 …… 5

◆　活動日誌 …… 6

◆　派遣生徒報告

厚南中学校　天重泉美 …… 11

楠中学校　石原和明 …… 11

西岐波中学校　江波駿介 …… 13

常盤中学校　大上いくこ …… 14

厚南中学校　奥田朱音 …… 15

桃山中学校　小松花鈴 …… 16

宇部フロンティア大学付属中学校　佐伯翠 …… 17

楠中学校　福田雅 …… 18

川上中学校　星田陽帆 …… 19

厚南中学校　森愛華 …… 20

◆　引率教諭報告

宇部市教育委員会　大山裕子 …… 22

常盤中学校教諭　惠藤哲彦 …… 24

◆　資料 …… 27

派遣者名簿

派遣生徒

氏　名	性別	学校名	学年
天重（あましげ）　泉美（いずみ）	女	厚南中学校	3
石原（いしはら）　和明（かずあき）	男	楠中学校	2
江波（えなみ）　駿介（しゅんすけ）	男	西岐波中学校	3
大上（おおうえ）　いくこ	女	常盤中学校	3
奥田（おくだ）　朱音（あかね）	女	厚南中学校	3
小松（こまつ）　花鈴（かりん）	女	桃山中学校	3
佐伯（さえき）　翠（みどり）	女	宇部フロンティア大学付属中学校	3
福田（ふくだ）　雅（まさし）	男	楠中学校	3
星田（ほしだ）　陽帆（はるほ）	女	川上中学校	3
森（もり）　愛華（あいか）	女	厚南中学校	2

引率教諭

大山（おおやま）　裕子（ゆうこ）	女	宇部市教育委員会
惠藤（えとう）　哲彦（てつひこ）	男	常盤中学校教諭

研修日程

月日	曜日	行事
6 月 6 日	火	1800-2000 【ガイダンス】 @宇部市役所 2 階 第 2 会議室
6 月 17 日	土	1300-1700 【事前研修 #1】 @宇部市役所 2 階 第 1 会議室 ・自己紹介 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション作成） ・アトラクション説明
7 月 1 日	土	1300-1700 【事前研修 #2】 @宇部市役所 2 階 第 1 会議室 ・目標設定 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション練習） ・アトラクション練習
7 月 20 日	木	1300-1700 【事前研修 #3】 @宇部市役所 2 階 第 2 会議室 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション練習） ・アトラクション練習 ・英会話レッスン
7 月 31 日	月	1300-1400 【事前研修 #4】 @宇部市総合福祉会館 4 階 大ホール ・最終確認 1400-1445 【壮行会】 @宇部市文化会館　1 階第 2 展示室 ・各自の目標発表 ・宇部市 PR プレゼンテーション披露 ・引率者挨拶
8 月 2 日	水	宇部市発
8 月 11 日	金	宇部市着
8 月 17 日	木	1300-1700 【事後研修】@宇部市役所 4 階 第 2 委員会室 ・自己評価 ・ワークショップ "ジュニアグローバル研修の成果"
8 月 22 日	火	1400-1500 【帰国報告会】@宇部市役所 4 階 第 3,4 委員会室 ・主催者挨拶 市長、友好協会会長 ・帰国報告 引率教諭 ・派遣生徒による報告 1500-1600 【座談会】@宇部市役所 4 階 第 2 委員会室

派遣日程

月日	曜日	行事	宿泊
8 月 2 日	水	・山口宇部空港発（NH700） ・羽田空港着 ・羽田空港発（NH879）	機内
8 月 3 日	木	・シドニー空港着 ・自治体国際化協会シドニー事務所・日本政府観光局訪問 ・セントラル駅発 ・ブロードメドー駅着	ホームステイ
8 月 4 日	金	・ハイスクール通学	ホームステイ
8 月 5 日	土	・ホストファミリーとオーストラリアの生活体験	ホームステイ
8 月 6 日	日	・ホストファミリーとオーストラリアの生活体験	ホームステイ
8 月 7 日	月	・ニューカッスル大学ランゲージセンター通学 ・ハイスクール通学	ホームステイ
8 月 8 日	火	・市長表敬訪問 ・農場見学など	ホームステイ
8 月 9 日	水	・ハイスクール通学/Sports Day ・送別会（プレゼンテーション発表）	ホームステイ
8 月 10 日	木	・ブロードメドー駅発 ・セントラル駅着 ・シドニー空港発（NH880）	機内
8 月 11 日	金	・羽田空港着 ・羽田空港発（NH693） ・宇部空港着	-

活動日誌

8 月 3 日　担当：石原　和明

長かった飛行機での旅も終わり、いよいよオーストラリアに入国しました。最初に訪れたのは、自治体国際化協会シドニー事務所です。ここでは、各プレゼンをしてくださった方々の仕事を知るだけでなく、どのように英語を学んだら上達するかなど、とにかく「アウトプット」が大事など、貴重な話を聞くことができました。そしてまたしばらく 2 時間半ほど電車に乗った後、ようやくホームステイ先の人と会うことができました。僕は英語がペラペラに話せるわけではないので緊張したけど、とにかく笑顔ではっきりと「Nice to meet you!」と言うとお父さんも「Nice to meet you too!」と大きな声で答えてくださいました。僕と同じ年のナサニエルは僕が少し行き詰っても、言い方を変えたり、ジェスチャーを入れてくれたりして、一生懸命話そうとしてくれました。そのおかげで、今日はまだ、お父さん、ナサニエル、ペニーちゃん（ナサニエルの妹）としか会えませんでしたが、すっかりうちとけることができたと思います。まだまだあるオーストラリア研修、気を抜かず、笑顔を忘れずに、どんどん「アウトプット」しながら楽しんで学んでいきたいと思います。

8 月 4 日　担当：大上　いくこ

今日はハイスクール通学 1 日目であり、生まれて初めてスクールバスに乗って登校した。同じ年齢の生徒でも予想以上に背が高く、顔立ちも大人っぽいことに驚いた。最初は少し怖かったが、皆が優しく接してくれ、すぐに仲良くなれた。2 時間目の日本語の授業で自己紹介をしたが、緊張して記憶に残してもらえるような話はできなかった。2 時間目が終わった後、おやつの時間があった。日本の中学校にはおやつの時間がないので驚いた。ホストスチューデントのレベッカに、なぜこのような取り組みをしているのかを聞くと、残りの 2 時間をもっと集中しやすくするためだと彼女は答えた。また、おやつの時間には前後の授業の話やその日の朝に起こったことを先生に話す友達もいて、コミュニケーションの場にもなっていると感じた。良い習慣とも思うが、休み時間での飲食は悪いことと考える人が多い日本では難しいかもしれない。5 時間目の英語では「シェイクスピア」を見たが、内容を全然理解できなかった。レベッカにそのことを言うと「シェイクスピア」では古い英語が使われていて難しかったと答えた。放課後私はレベッカたちとビーチに行った。押し寄せる波のキレイな海が魅力的だった。

8 月 5 日　担当：奥田　朱音

今日はネットボールの試合だった。外でやっていた。バスケットボールと似ているといわれたけど、ほとんど違っていた。よくルールが分からなかった。ホストマザーがコーチをしていて、ケイティーもでていた。試合は負けたらしい。悔しそうだった。

午後からヨットに乗って、イルカとクジラを見に行った。すごく楽しかった。残念ながら、イルカとクジラは見れなかったけど、本当に楽しかった。

スーパーマーケットに行った。ピザの材料を買いに。子供たちは無料でフルーツを食べれた。日本のとは、似ていたけど違っていた。エスカレーターが階段じゃなかった、カートを押しながら駐車場までいけた。

明日は馬に乗る！楽しみ！

8 月 5 日　担当：佐伯　翠

今日はリアーナの入っているサッカークラブ"KAHIBAH FC"のサッカーデーでした。今日リアーナは審判を朝から昼までずっとしていました。プレイヤーは 5、6 歳ぐらいから小学生ぐらいまでの男子女子のチームがたくさん集まっていて、とてもサッカーは人気のスポーツなのだなと身をもって実感しました。

私はなんとサッカー場の売店でリアーナが審判をしている間、家に帰るまでバイトをしました。売店ではおかし、サンドウィッチ、パイ、ソーセージロール、ジュースなどいろいろなものを売りました。買いにくる人は地域の子どもから同い年ぐらいの人、大人、おじいさん、おばあさんなどすごくいろいろな人でみんなとてもやさしい方ばかりですごく楽しかったですし、いろいろな違いなどを発見することもできました。一緒に私と売店で働いてくれた 1 人のお母さんととても仲良くなって日本のこと、オーストラリアンイングリッシュのこと、すごくいろんな事をしゃべって英会話の練習になりました。自分で注文をとることからお釣りの計算を 1 人で助けを借りながらやったことでお金の計算がまったく困らずできるようになったこともすごく良い経験になりました。不安だった気持ちも少しまぎれたし、楽になりました。明日はリアーナのサッカーの試合、応援頑張ります。バイトのお礼でもらったソーセージロールおいしかったです。

8 月 6 日　担当：星田　陽帆

朝食はパンケーキでおしゃれでした。私がフルーツが好きだというのを知って、パンケーキにのせるフルーツをたくさん用意してくれました。とてもおいしかったです。

今日は車で港まで行き、フェリーに乗りました。ビーチがとてもきれいで魚や鳥が間近でたくさん見れて最高でした。フェリーに乗っている間、写真を見ながら会話しました。今日は自分のこともたくさん話せたし、ジョージアのこともたくさん聞けました。

帰る途中、カンガルーがたくさんいました。初めてみるカンガルーでした。カンガルーを見せてくれるためにUターンしてくれて、3 回カンガルーが見れました！

夕食は私が好きだと言ったオムレツを作ってくれました。とても優しいなと思いました。できたてであたたかく、チーズが入っていて、とてもとてもおいしかったです。今日の夕食のときは、だいぶ話についていけました。夕食後テレビを見ているときも、いろいろ教えてくれて、話ができました。

カードゲームもしました。弟たちがとても面白くて楽しかったです。はじめてやるゲームだったけど、ルールを教えてもらい、理解できたのでよかったです。今日 1 日のお礼をホストマザーに英語で話したら伝わったのがいちばん良かったと思いました。

8 月 6 日　担当：森　愛華

今日は 8 時くらいに起きたのでサフロンが起こしに来るまで音楽を聴いて待っていました。今日はお父さんが大きなショッピングセンターまで連れて行ってくれました。私が「オーストラリアのものが買いたい」と言うとオーストラリアにしかない店にたくさん連れて行ってくれました。「どっちがいい？」や、「お金の単位がわからない」と言うとリリは優しく全部教えてくれました。私はリリとおそろいのキーホルダーと似た感じの帽子を買いました。昼食を終えて、私たちは昨日フィッシュ＆チップスを食べたビーチへ行きました。ANZAC が作ったという橋を渡ったところにある丘から見た海はとてもきれいでした。サーフィンをしている人はもちろん、イルカまでいました！帰ってからは「ORIGAMI Time!」とリリが言い、みんなでおりがみをしたり、UNO やかるたなどのカードゲームをしたりしました。日本の文化をたくさん伝えることができてうれしかったです。

8 月 7 日　担当：小松　花鈴

朝、7 時 15 分に起きました。そして、シリアルを食べました。8 時 15 分に車に乗って高校に行きました。学校の図書館にいって絵をみました。1 冊は家族がオーストラリア 1 周をする絵本でわかりやすかったです。そして、サフロンたちとわかれてニューカッスル大学にいきました。まず、いろんなところを見てまわりました。とても広く、自然がいっぱいでした。そして、英語のクラスに行きました。アジア系の人がたくさんいました。最初の並び替えはだいたいわかったけど、教科書を使い始めるとほとんどわかりませんでした。授業を終えると、もってきた昼ご飯を食べました。すっごくおいしかったです！あとＴシャツとボトルを買いました。Ｔシャツを 5 ドルと思って買ったら 5 ドル値下げという意味でした。失敗。まぁこれも経験だと思います。そして、バスで高校まで帰りました。

職員室で待っても、サフロンが来なくてコリーナ先生の授業にいきました。インドネシア語の授業で、少しだけわかりました。

8 月 8 日　担当：福田　雅

今日は午前中、ニューカッスル市長を訪問しました。選挙の前で時間が無いにも関わらず、僕たちのリコーダーの演奏を聞いてくださいました。市長さんの前で演奏するのは、とても緊張したけど、間違えずに吹くことができました。よかったです。その次に、市議会議場やパーティホールを見せてもらいました。とても広くて驚きました。

その後農場見学に行きました。そこでは、爬虫類ショーなどを見たりしました。中でも、一番印象に残ったのは、コアラにタッチしたことです。とてもふわふわしていて、人形みたいでした。お昼ご飯を食べたあと、いろいろな動物にエサをあげました。ワラビーやカンガルーがとてもかわいかったです。エサの袋を見せると寄ってきて、最後には袋まで食べられてしまいました。おもしろかったです。

8 月 9 日　担当：江波　駿介

最後の学校の日。1 時間目は歴史、風刺画を見て第一次世界大戦のドイツの様子を説明するという授業。オーストラリアの授業ルールは日本とだいぶ異なる。遅刻しても怒らないし、生徒は先生がスクリーンに出す文章を随時書かないといけない。時間がくれば生徒も先生も勝手に片づける。何より号礼がないのは違和感を覚える。

3 時間目の日本語の授業では誕生日ケーキが出てきてビックリ。習字の作品を配ったら、案外みんな喜んでくれたのが嬉しかった。もっと書いてくればよかった。

Sports Day ということで Netball をした。正直面白くない。オーストラリアではずいぶんポピュラーらしく、大上さんのホストチューデント Rebecca も 9 年やっているらしい。でも多分生涯 1 度の Netball だろうから 1 回くらいはやってみるのも良しかと。昼食のときに、売店にいってみた、中にほうれん草などの野菜が入ったパイを買った、ベジタリアン向けなのか。これも多民族の豪ならではか。

5 時間目で再びケーキを食す。彼らの日本語は本当に Excellent だった。プレゼン発表少し焦った。豪の生徒はいちいちリアクションしてくれるから、ちょっと嬉しかった。夜に誕生日会を開いてくれるというのでいってみたら、ホストファミリー以外にも友達や先生が来てくれていて感激。本日 3 度目のハッピーバースデー。豪の人々は誰かの誕生日があると、関係ない人でも祝ってくれる。それだけ彼らにとって誕生日は特別な日なのだろう。

8 月 10 日　担当：天重　泉美

いよいよ最終日。この 1 週間はとても早かったです。朝駅に行く前にお母さんは仕事で家でお別れしました。とても悲しかったです。お父さんは、最後の最後まで荷造りを手伝ってくれました。本当に優しくて、このホストファミリーで良かったです。

私は、初めての外国、初めてのホストファミリーで分からないことだらけだったけど、みんなが優しかったおかげで、最終日を迎えられてとてもうれしいです。

とても楽しく充実した 1 週間でした。

派遣生徒報告

厚南中学校　3 年　天重　泉美

今回の研修事業は、私にとって初めての事ばかりでした。海外渡航、ホームステイ、コアラやカンガルーとの触れ合い。想像と違うこともあり、楽しかったけれど戸惑うこともありました。そして、英語も思うように通じず、ホームステイ初日は、ホストファミリーとなかなか会話ができませんでした。

オーストラリアに着いた初日、メールで連絡は取り合っていましたが、どんなホストファミリーにお世話になるのかとても不安でした。実際会ってみると、とても優しそうな家族で安心しました。駅から家までの車中で積極的に話しかけてくれたり、分からない単語を優しく教えてくれたりと、私がなるべく会話に入れるようにサポートしてくれました。

次の日に初めてハイスクールに行きました。通学にはバスを使いました。バスでは、オパールカードというカードをお金の代わりに使い、その他にもフェリーや電車でも使われていました。

私が学校に着くと現地の子たちが笑顔であいさつをしてくれたり、話しかけてくれたりして、とてもうれしかったです。学校での昼食はお弁当でした。私が学校のことで一番びっくりしたのは、スマートフォンを持ってきてもいいのと、2 時間目の後におやつタイムがあることです。この制度は日本の中学校にも取り入れてほしいです。

休日は家族みんなでシドニーへ行きました。生オペラハウスはとても大きくて感動しました。私のホストファミリーは、昼食代も電車とフェリー代も出してくれましたし、移動中も積極的に話しかけてくれて、とても優しかったです。こんな優しいホストファミリーに出会えてよかったです。

最後に私はこの研修でたくさんの事を学びました。とても貴重な体験をさせていただき、感謝しています。この事を無駄にしないように、これからもっと英語の勉強をし、しっかり将来に役立てたいと思います。

楠中学校　2 年　石原　和明

今回の研修は僕にとって初めての海外訪問でした。約 10 日間家族と離れ、家以外でしかも海外での生活、期待と不安が五分五分でした。

8 月 2 日夜、羽田空港を出発し、約 9 時間かけてシドニー空港へ到着しました。最初に訪問したのは、自治体国際化協会シドニー事務所でした。そこで、自治体国際化協会および日本政府観光局の方々からお話を伺い、オーストラリアについて知識を深めることができました。そして英語でのコミュニケーション能力を高める上で大切なことや、相手に興味を持ち、どんなことでもいいから質問する、常に自らアウトプットすることなどが大切だと教わりました。これからの 10 日間僕は常に心掛けていこうと思いました。

その後、電車に 2 時間半ほど揺られ、いよいよホストファミリーと対面でした。お父さんの温かい笑顔を見た瞬間に最初にあった不安が、まるでうそだったかのように消えてなくなりました。僕の英語力のなさに加え、緊張のあまりなかなか英語が聞き取れずに困っていたら、同い年のナサニエルがゆっくり話してくれたり、言い方を変えてくれたりして本当に助かりました。

4 日はハイスクールに通いました。まず驚いたのはクラスに教室がないということでした。給食もなく、昼食はみんな家から持参した弁当または、学校内の売店で購入したものを食べていました。僕はホストマザーが持たせてくれたサンドイッチを食べました。

5 日はホストファミリーのみんなと一緒にブラックバットリザーブという自然保護公園に行きました。見たことのない模様の鳥やコアラ、カンガルーを見ることができました。お昼はみんなでバーベキュー、焼いたソーセージをパンに挟んで食べました。ソーセージがとてもおいしかったです。

6 日、この日もホストファミリーのみんなと一緒に出かけました。生まれて初めてカヌーに挑戦しました。3 人乗りのカヌーで、僕はお父さんとナサニエルと一緒のカヌーに乗りました。バランスが取りづらく、いつ落ちるのかと不安になるほどでした。スリル満点でとても楽しかったです。ホストファミリーと過ごした時間は一生忘れません。

7 日はランゲージセンターに行きました。そしていよいよ 8 日は市長訪問。久保田市長さんからお預かりした大切なメッセージを僕から渡すことになっていて、大変緊張していました。しかし、一緒に行った 10 人の仲間、そしてメリーウェザー高校の日本語を勉強している学生のみんなが僕を見守ってくれたおかげで、無事大役を果たせました。そしてリコーダーの演奏はチームワークもよく、大成功でした。僕たちを指導してくださった皆さんに感謝いっぱいでした。

9 日は学校のスポーツデーでした。僕はバドミントンをしました。とても楽しかったです。そのあとはいよいよプレゼン。今まで練習してきたことをすべて出し切ることができ、本当に大成功だったと思います。

そしていよいよ最終日、ホストファミリーとの別れはとても悲しかったです。僕に優しくしてくれたお父さん、お母さん、いつも一緒に遊んだ妹のペニー、いつでも僕と一緒に行動してくれたナサニエル、かっこいいお兄さん、僕はかけがえのないもう一つの家族を持つことができました。またいつか絶対に会おうね！とナサニエルと約束をして、オーストラリアをあとにしました。

最後になりましたが、僕たちを引率してくださった先生方、国際政策課の皆さま、ジュニアグローバル研修事業に携わっていただいた全ての方々に心から感謝いたします。僕を支えてくれて笑顔で送り出してくれた家族、そして温かく迎えてくださったもう一つの家族であるホストファミリーの皆さま、ありがとうございました。僕は一生この体験を忘れません。僕にこんな素晴らしい体験を与えてくださった宇部市に感謝します。僕の将来の夢は先生になることです。もっともっと勉強して、いつか僕も今度は僕たちのような子どもたちを引率できるような人になりたいです。僕が体験したこの素晴らしい時間をたくさんの人に伝えていけるような先生になりたいです。ありがとうございました。本当に素晴らしい時間でした。

西岐波中学校　3 年　江波　駿介

生まれて初めての海外旅行となった今回のニューカッスル派遣事業は、私にとってまさに文字通りに驚きと感動の連続であった。それらを大きく三つに分け、ここに報告としてあげる。

最初に私が感動したのは、オーストラリアの自然だ。一夜をまたいで 9 時間のフライトを終え、シドニー空港を出て真っ先に私が目を向けたのは植物。私は大の植物好きで小学生の頃は常盤植物園に通いつめていたほどである。ストレリチア、アガベ、ナンヨウスギ、バンクシア、トックリラン…。日本では自生していない植物たちが目の前にあることに、私はある種の興奮を覚え、そして、まるでオーストラリアが一つの大きな植物園であるかのような錯覚さえした。だが、この大きな植物園はただ植物だけが素晴らしいわけではなかった。コアラやカンガルーなどといったオーストラリア独特の動物たちと、雄大な景色。中でも、ホストスチューデントと一緒に乗ったラクダからの砂丘の眺望や、夜空にまたたく南十字星やさそり座、動植物や宇宙など自然大好きの私にとって、オーストラリアは感動が詰まった宝島だった。

赤道をはさんでほぼ反対側の位置にあるオーストラリア。今回の研修ではもちろん、日本との相違点も多く発見できた。その一つがオーストラリアの接客につ

いてだ。研修をはじめて間もないころは、商品の置き方が雑だったり、仕事中に店員同士で雑談をしたりなど、日本であまり見慣れない様子に不快を感じることもあった。しかし、それは日本とオーストラリアの接客事情の違いから生まれているのだということに徐々に気づき始めた。日本では、店員はお客さまに対して「礼」をもって接することをおもてなしと考えている。ところがオーストラリアでは、礼の代わりに相手の様子を尋ね、「良い週末を」といったような「あいさつ」をするのだ。それに対して消費者もあいさつを返す。彼らは、客とフレンドリーに会話することを最大の「おもてなし」と考えているのだ、と私は悟った。日本とは少し違うおもてなし、それらには両方にそれぞれの良さがあり、お互いに尊重すべき違いなのだと、今の私は思う。

数々の発見があった今回の研修だったが、研修が楽しかったかと自分に問うならば、必ずしもイエスと言えるわけではない。もちろん、ホームステイをして、ホストファミリーと過ごした時間はかけがえがない。しかし、相手の言いたいことが分からなかったり、自分の言いたいことが伝えられなかったりと、もどかしさを感じることが多々あった。ホームステイの後半は慣れてきたのか少しはしゃべれるようにはなったが、私の低レベルの英語に、優柔不断な性格が手伝って、意見すら持てずに会話がストップしてしまうこともあった。まずは英語力を身に付ける。そして、しっかりと自分の意見、考えを持ち、それをアウトプットする。これが、今回の研修で確認した私の今後の課題だ。

オーストラリアでホームステイをしたことで私は、オーストラリアの悠久の自然にふれ、日本との違いを感じ、今後の目標を得ることができた。今回の体験は、これから英語を勉強する原動力になるだろう。ホストファミリーと滞りなく会話ができるくらい英語の上達に努めることをここに誓うとともに、1週間私に良くしてくれたホストスチューデントとその家族、友達に感謝をしたい。

常盤中学校　3年　大上　いくこ

私はホストシスターのレベッカの紹介で、多くの学生と仲良くなった。彼女たちと触れ合う中で、日本人との違いを三つ見つけた。一つ目はオーストラリアの人はジェスチャーを使いながら話すことが多く、おかげで言葉が難しくても理解できる場面がたくさんあった。二つ目は感情を日本人のように隠さずに、表に出すことである。喜びを感情として出すことで伝えたいことが分かりやすく、私まで楽しい気持ちにさせてもらった。三つ目は自分の意見を持ち、積極的に行動できる人が多いことだ。未経験なことに取り組ませ、自

分たちで考えさせる授業が多かったためかもしれない。

また、ホストファミリーに「オーストラリアデー」について教えてもらった。その日にはさまざまなイベントが開催され、多くの人がビーチに行ったり、バーベキューをしたりして楽しむらしい。この行事はイギリスの艦隊がオーストラリアに来た1月26日に行われる。また、別の日の「ソーリーデー」についても教えてくれた。かつてイギリス人がオーストラリアを植民地にした時に、アボリジニの人に対して行ったさまざまな仕打ちを反省して行われるらしい。私は、より良い形で共存していこうとする取り組みを素晴らしいと感じた。

私からは「節分」や「おひなさま」をはじめとする日本の年中行事を紹介した。いろいろと話す中で、日本では自然に関係する行事やお祭りが多いが、オーストラリアでは人が行ったことに対するイベントが多いように思った。また、オーストラリアや日本のお金に載っている人物について教えあった。現在の幸せな生活をもたらしてくれた偉人について、お互いに理解を深めた。

私はこの研修で出会った多くの友達との交流を通して、外国の人の中に入らなければ分からないことを数多く学べた。今後は今回の経験を多くの人に話すことで、国際交流の楽しさと大切さを伝えたい。そして将来、日本の良さを海外にアピールして文化交流を推進し、お互いの国を尊重し合う気持ちを育むことができればと思う。

今回の研修に携わっていただいた皆さま、このたびはこのような機会を下さり、ありがとうございました。

厚南中学校　3年　奥田　朱音

今回のジュニアグローバル研修が、私の初めての海外経験でした。私はオーストラリアに出発する空港で、ホームステイ先の人はどんな人だろう、オーストラリアの暮らしはどんなのだろうと、ずっと興奮していました。飛行機で9時間という長いフライトで、朝は眠たかったけど、シドニーに着くと、興奮して疲れが一気にとれました。まず私たちは、政府機関を訪問し、オーストラリアのことを学びました。そして、電車でシドニーからニューカッスルまで2時間半かけて移動しました。この2時間半は、とてつもなく長かったです。一緒に行った派遣生と「ニューカッスルまだかねぇ」と話しながら、ニューカッスルに着くのを楽しみにしていました。ニューカッスルの駅に着くと、ホストファミリーが待ってくれていて、派遣生は、各ホストファミリーの家に分かれました。もう夜だったけど、私は、ホストマザーとホストスチュー

デントのケイティと一緒にビーチに行って遊びました。

私もホストファミリーも泳ぐのが好きなので、次の朝は5時に起きて、学校に行く前にプールに行きました。そこで、友達もできて、水泳のコーチとも親しくなりました。すごく楽しかったです。学校に行くと、たくさんの人が周りに集まってきて、昼ごはんを一緒に食べました。みんな仲が良くて楽しかったです。授業でサッカーもして、本当に楽しかったです。金曜日は学校が早く終わって、バスまで時間があったので、4人で近くにあるセブンイレブンに行きました。この4人は、私が一番好きなグループで、ケイティの友達のグループです。土日には海に行って泳ぎ、ヨットに乗ってイルカを見に行きました。残念ながらイルカは見られなかったけど、ほかにもボートに乗ってビーチの周りを回ったりして、本当に楽しかったです。

いろんな場所に行き、いろんな人に会えて、最初は何を言っているのか分からなかったのが、だんだん分かってきて、英語力も上達したように感じます。この夏にいい体験ができたなと思いました。

桃山中学校　3年　小松　花鈴

今回の研修で、私はかけがえのない10日間を過ごした。ホストファミリーとの温かで楽しい日々。とりわけ同い年のサフロンとの時間は、宝ものになった。また、メリーウェザー高校で体験した英語での授業など…。そのどれもが素晴らしい経験だった。

しかしそれらの中で、私にとって一番印象に残ったのは、サフロンをはじめ同年代の生徒がみな「大人びている」ということだった。見た目はもちろん、話す中身やしぐさも含め、全てが大人びており、不思議でならなかった。

そのメリーウェザー高校では、ほとんどの女子がピアスをつけ、きれいにネイルをしていた。授業中でも学習のためであればスマートフォンを触ることができるし、お菓子を食べることも許される。校則が「ゆるい」ということは出発前にも聞いてはいたが、ここまで大きな自由が許されて、しかも規律が保たれていることには、本当に驚いた。成熟しているのだ。

高校の中でホストスチューデントのサフロンと過ごす時、自然に振るまえている自分がいた。そしてそれは私を含め、学校自体が本当に多様な人で成り立っているからではないかと私は考えた。

周囲を見渡せば、アフリカ系、アラブ（西アジア）系、私と同じ東アジア系、南アジア系、オーストラリアの先住民系、そしてサフロンと同様のヨーロッパ系

など、みんな個性的な生徒ばかりだった。ヒジャブをかぶったムスリムの生徒もいた。出発前に「オーストラリアは民族、文化、人種、宗教を超えた共生社会を目指している」と知ったが、メリーウェザー高校はまさにその共生社会のようだった。だから私も自然に振るまえたのだ。

オーストラリアは多様な社会だからこそ、小さな時から各自が意見を持ち、出し合い、違いも含めて認め合わなくてはならないのだろう。つまりお互いの人権を大切にするために「違いを含めてお互いに認め合う」ことが欠かせないのだ。だから校則が「ゆるい」など自由の幅が広いということは、早くから大人として扱われているということであり、言い換えれば「早く大人になれ」ということなのだろう。また、その自由を維持するために、重い責任をお互いが早くから負うことでもある。だからこそ、大人びているのではないだろうか。屋外でサフロンとランチを食べながらそう考えた。

このように、多くの経験と学びのある 10 日間だった。それをもとに、今後私は次の 2 点に力を入れたい。

まず、自分の判断力を上げることだ。私は物事をあいまいに考えてしまったり、意見をはっきり言えない時がある。それを克服するためにも、読書の量を増やし、日本の歴史や文化などをもっと幅広く学び、深いところまでしっかりと見極め、判断力を身につけたい。

次に、英語力の向上だ。英語が使えることは、自分の世界を広げ、新たな発見をするためには欠かせない。今回の研修中、もっと英語が使えたら、と何度も悔しい思いをした。次にこのようなことにならないよう、日々の努力を惜しまず、勉強しようと思う。

今回、引率してくださった先生方、国際政策課の皆さま方、そして友好協会をはじめとして、ご支援くださった全ての方々に、心から感謝します。ありがとうございました。この貴重な経験を将来に生かしてまいります。

宇部フロンティア大学付属中学校　3 年　佐伯　翠

今回私は日本ではできない貴重な体験をしました。出発 3 日前、壮行会の日にホストファミリーが変わり、ほとんどホストファミリーの情報がないままオーストラリアに行ったのでとても不安でした。ニューカッスル市に着いても、ホストファミリーに会ってからもなかなかホストスチューデントのリアーナと仲良くなることができず、すごくつらい時もありました。

そんな気持ちを変えるきっかけとなった貴重な経験がサッカー場でのバイトで

した。私のホストスチューデントのリアーナは女子サッカーチームでゴールキーパーをしていました。土曜日と日曜日はサッカーチームの試合がある日で、リアーナも参加しました。その間サッカーチームの活動費を集めるため、売店で軽食を売る手伝いをしました。買いに来るお客さんは小さな子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで老若男女さまざまな地域の方と交流することができ、オーストラリアの事もたくさん教えていただきました。

一番びっくりしたことは、売り場の「柵」です。「日本では見たことがない」と、一緒に働いた他のお母さんに聞くと、とても驚かれ「これがないとあぶないでしょ。なんで日本にはないの？」と聞かれ少し困りました。自分一人で周りの助けを借りながら注文をとることからお釣りの計算まですべて英語でしたことは、私にとってとても良い経験になったし、いろいろな人と英語で話したことで、会話することに少し自信がついて少しずつ話しかけたりすることができるようになり、帰る頃には自分の事、リアーナの事、日本の事、オーストラリアの事、いろんなことを話せるようになりました。心が折れそうになったこともあったけれど、今となっては家族の一員のように自分のことは自分でするホームステイをさせてくれたリアーナとお母さんのリネイさんに感謝しています。

この研修では英語以外にもたくさんの大切な事や物に触れ、学ぶことができました。この研修で学んだこと、感じた思い、気持ちは一生忘れず、今後の英語学習に生かし、将来の糧にしていきます。

最後に私たちを引率してくださった先生方、国際政策課の皆さま、支えてくれた両親、ホストファミリー、派遣生徒のみんな、関わったすべての方に感謝します。本当にありがとうございました。

楠中学校　3 年　福田　雅

僕がオーストラリアのニューカッスル市に派遣されて感じたことは三つあります。一つ目は、オーストラリアの人はとてもフレンドリーだということです。僕が、ホームステイしたのはライアン君のお宅でした。そして一緒に学校に通いました。ライアン君の横に立っているとすぐに、自己紹介と握手をしてくれました。日本人は恥ずかしがって、あまりそういうことはしないけど、オーストラリアの人は積極的に握手やハグをしていたので、とてもフレンドリーで、友達が好きなのだなと思いました。

二つ目はオーストラリアがとても自然が豊かで美しい場所だということです。僕は、学校が休みの土、日にケーブズビーチとグレンロックに行きました。その海や森はもちろんですが、そこに移動するまでの道路や街中、また学校や家の周

りなども緑に囲まれていて、空気もとてもきれいでした。
　三つ目は、食べ物のサイズや量が日本と違うということです。レストランもそうですが、家での食事でも、野菜やポテトが山のように盛られ、ステーキや魚も大きかったです。これは日本のようにご飯が『主食』というふうにはっきりと分けていないからかなと思いました。
　オーストラリアでの生活は、日本での生活とずいぶん異なりました。この研修で学んだり感じたりして、自分の中に吸収したものを今後の生活につなげていきたいです。

川上中学校　３年　星田　陽帆

　私は英語力を上げたいという思いでオーストラリアへ行きました。初めてのホームステイで本当に貴重な体験をさせていただきました。
　私は楽しみな気持ちで、期待を持って出発しましたが、いざ外国に着いて周りから外国語ばかりが聞こえてくると、急に不安になってきました。不安なまま駅に着くと、ホストファミリーが待っていてくれました。会った途端、笑顔でハグしてきてくれました。初対面でハグすると日本ではびっくりされますが、オーストラリアでは自然なことでした。おかげで私の不安だった気持ちは軽くなりました。また学校や道端でも目が合うと、たくさんの人がニコッと笑顔を向けてくれました。私はそういうフレンドリーな人柄がいいなと思いました。このようにオーストラリアの良さを感じることも、逆に日本の良さを改めて感じることも、多くありました。異なる文化や習慣を体感し、私は、それぞれの良さを国際間で共有できたらいいなと感じました。そして将来その手助けをしたいという思いも出てきました。
　家族旅行なら家族とは日本語で話しますが、ホームステイでは自分以外に日本語は通じません。そんな英語に囲まれての生活は貴重でありながらとても大変でした。ホームステイの１週間はあっという間に感じましたが、自分の英語でのコミュニケーション能力は一気に大きく変わった気がしました。初日の頃の私は聞かれたことにＹｅｓやＮｏで答えるだけで精いっぱいだったし、自分の英語に自信もなく、なかなか話すことができませんでした。でも、間違ってもいいから話そうと思えたことで変われました。そう思えたときから徐々に会話が増え、自分の口から英語が出てくる速さも徐々に上がっていきました。言いたいことを伝えるために一生懸命言葉を探しました。私のたどたどしい英語でも聞いて理解してくれたから、間違っているかもと思っても安心して英語を発することができまし

た。でも、だからこそ、もっとうまく英語で会話したいという思いも強くなってきました。

私は、この研修中、伝えるためにとにかく言葉を発することを身に付けました。まだまだ完璧な英語には程遠いけど、これを身に付けられたことは、英語でコミュニケーションをとる上で大きな一歩になったと思います。この経験がなければ自分の英語の実力を知ることはできなかったし、そこから一歩進むこともできませんでした。本場で英語を試せたことで、英語力を上げたいという意欲が本物になりました。自信をもって英語を話せるような英語力を身に付けたいという思いを実現するために行動に移します。この研修で得たものをここで終わらせてはいけないと思います。この経験ができたこと、多くのものを得られたことに感謝し、それが将来私だけでなく多くの人にとってプラスにならなければいけないという思いで先に進んでいきたいです。

厚南中学校　2年　森　愛華

9時間の長い飛行機の旅を終え、私たちはシドニー空港に到着しました。初めての海外生活に、とても緊張していましたが、それよりも異国に来た興奮の方が大きかったです。

私のホストファミリーは高校1年生と中学校2年生の女の子がいるサバイ一家で、3年生の先輩と一緒に滞在しました。ホストファミリーとは事前にメールのやりとりをしていたのであまり不安はありませんでした。ホストファミリーはとても優しく私たちが理解できるまで、丁寧に説明してくれました。みんなで折り紙を折ったり、トランプやかるたなどのカードゲームをしたりする中で、日本の文化とオーストラリアの文化を教え合うことができました。

中学校2年生のリリと一緒に学校へ通学したことは本当に貴重な体験です。最初のうちはリリの友達がたくさん話しかけてくれても全く聞き取れませんでしたが、少しずつ受け答えができるようになり、次第に自分から話すことができるようになりました。1週間で上達したと感じました。ネーティブ同士の会話に耳を傾けるなどの努力をした成果だと思うと、本当にうれしかったです。

私がこの研修で発見したことが二つあります。一つ目は、発音の違いです。英語の授業で習った発音とオーストラリア英語の発音は少し違いました。特に「e」を「a」と発音していたので聞いただけでは理解できず、スペルを書いてもらってようやくわかりました。

二つ目は文化です。食事や学校、街並みなど何もかも日本と違いました。中で

も学校は日本のようにたくさんの校則がなく、生徒が自由な感じでとても楽しそうだなと思いました。

私は今回の研修でとても多くのことを学ぶことができました。積極性や英語で何かを伝えようと努力する力が身に付いたと思います。このような貴重な機会を頂けたことに感謝し、今回の出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。

平成 29 年度ジュニアグローバル研修派遣報告書

宇部市教育委員会　指導主事　大山　裕子

研修生の派遣については、今年度より今までの学校推薦から公募による選定となった。30名を超える応募者の中から選抜された10名の生徒とともにニューカッスルを訪問することとなり、これまでの派遣生徒以上に大きな成長が見られる訪問になるのでは、と期待して日本を旅立った。今年は、宇部空港を出発し羽田空港で乗り換えてシドニーへ向かうという行程だった。生徒たちは羽田空港で夕食を取り、多少興奮していたものの、飛行機の中ではリラックスして過ごしていた。

8 月 3 日の朝、シドニー空港に到着するとすぐに「一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR)」を訪れた。そこで、担当者から事業内容の説明や、海外で働くことになった理由についての話を聞いた。2 人の方から話を聞き、生徒は海外で働くことや留学することについての関心を一段と高めたのではないかと感じた。最初は恥ずかしがっていた生徒も、「積極的に質問や意見を言わないと海外では通用しないよ。」と促され、自ら質問するようになっていった。その後フードコートに移動し、食事をとったのだが、そこで今回初めて自分で英語を使ってコミュニケーションをとる経験をすることとなった。今回、私はなるべく手を貸さず見守ろうと決めていたので、「自分で言ってごらん」と声をかけ遠くから見ていた。生徒たちは四苦八苦しながらも、自ら英語で注文し、ランチを食べることができた。自分の考えや思い等を相手に伝えることは、海外ではとても大切なことであり、その経験を重ねることで、少しずつ上達していくものだと再認識することができた。ちなみに、最終日にも同じフードコートで食事をすることとなるのだが、9 日前とは違って、スムーズに注文できるようになったので、中にはデザートを注文する余裕さえある生徒もいた。

その日の午後電車でニューカッスルに向かった。ブロードメドーの駅に着くと、ホストファミリーが迎えに来てくれており、生徒にとって初めてのホストファミリーとの生活が始まった。

メリーウェザー高校では、日本語の授業だけでなく、数学・社会・体育・音楽・国語・美術などの授業を受けた。どの教科も、英語での授業なので内容ははっきりと理解できなかったと思うが、他国の授業を受けることにより、日本の良い点や問題点などに気づくことができたのではないだろうか。日本語の授業で何度も、自己紹介をする機会があったが、回を重ねるごとに生徒たちの話す内容が変わり、使う英単語も増えていったことに感動を受けた。出発した時よりも自信に満ちた表情になり、頼もしさすら感じた。きっと、日本で再会した家族の方々も同じことを感じられたのではないだろうか。海外研修の目的は、単なる英語力の向上だけではないと改めて感じた研修でもあった。

オーストラリアの生徒は、家に帰るとすぐ宿題に取りかかる、と生徒たちは驚い

ていた。また、次の日に大事なテストがあるからと遅くまで勉強するホストスチューデントも多く、勉強に対する意識の違いにも気づかされたようであった。さらには、日本人の良い面にも気づくことができた。それは、食べ物に対する考え方だ。生徒が戸惑ったことの一つに食事の量の多さがある。渡航前に、「多いときはお腹いっぱいといっていいんだよ。」と言われていたが、どうしても「もったいない」という思いがあり、無理をして食べていたようである。「食べ物を粗末にせず、感謝の気持ちをもっていただく」それが日本人の素晴らしさではないかと生徒とも話した。世界には、色々な考え方があるが、日本人として大切にすべき部分は、どこに行っても忘れてはいけないと生徒たちも理解したようであった。

私自身は、オーストラリアの教育事情に大変興味をもった。まず、全ての教室にパソコンとつり下げ型のプロジェクターが設置され、ICT を多用した授業が展開されていた。生徒は、学校で準備された個人アドレスを持っており、放課後なども教師とメールで授業の内容や質問事項について尋ねることができる。学校で決めたアドレス以外では、教師は生徒とメールをしてはいけないこととなっており、そのことは厳密に管理されていた。また、学校の至る所にエピペンが設置されており、どの子がどんなアレルギーがあるのか、職員室の壁に貼ってあった。危機管理の意識の高さに感心した。外国というと学校生活も自由という感覚をもたれがちだが、教員は朝の登校時や昼休み、放課後など交代で校内を巡視していた。全てが自由なわけではなく、むしろ日本よりも厳しい部分もあり、これからの日本の学校教育について考えさせられた 10 日間であった。

ニューカッスルでは、市長表敬訪問、ニューカッスル大学での講義参加、メリーウェザー高校でのプレゼンテーション、農場訪問など日本ではできない行事をたくさん経験することができた。それぞれの場所で出会う人々は大変親切で、私たちを好意的に受け入れてくれた。最終日、シドニーに戻る電車の中で、何人かの生徒が「将来留学するためにはどうしたらいいのか。」と聞いてきた。今回の研修をきっかけに、海外で学ぶことに興味を持った生徒が出てきたことは喜ばしいことである。今、日本では使える英語の取得を目指して、大学の入試制度や小学校の外国語活動など英語教育が大きく変わろうとしている。生徒たちは、他国の人々との交流を通して、コミュニケーション能力の大切さや宇部市の魅力について、改めて気づくことができたのではないだろうか。生徒たちは、この度の研修で得た貴重な体験を活かし、これからの宇部市の発展に大きく貢献してくれるであろうし、国際的な視野をもつリーダーとしても大いに活躍してくれると期待している。最後に、このような機会を設けていただいた、宇部市、宇部市国際政策課、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会、宇部市教育委員会、ならびに研修事業にお力をいただいた方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も両市の友好関係がますます発展することを祈念しています。本当にありがとうございました。

[ニューカッスル市議会議場にて]

ジュニアグローバル研修を終えて　～Hope and Dreams～

宇部市立常盤中学校　教諭　惠藤　哲彦

1. はじめに

個人的には今回で 5 回目のオーストラリア訪問になりましたが、宇部市の代表生徒を引率するという重責をひしひしと感じつつ、10 日間の研修に臨みました。壮行会の時に申し上げた通り、この 10 名が充実した研修を終え、笑顔で帰国できることを目標とし、自分のできることを精一杯しようと心掛けました。実に中身の濃い、それでいてあっという間の 10 日間でしたが、ここで振り返ってみたいと思います。

2. メリーウェザーハイスクールでの研修

担当のコリーナ先生がとにかく素晴らしい方で、様々な面で最大限のサポートをしてくださいました。心から感謝しています。生徒たちは基本的にホームステイ先の生徒と共に実際の授業を受けました。数学、美術、家庭科などの馴染みのある教科から、インドネシア語の授業まで、バラエティーに富んでいましたが、もちろん英語で行われている授業なので、はじめは英語が聞き取れず、全く分からなかったと思います。そんな中で、必死にノートをとり、理解しようと懸命に

努力すること自体、非常に貴重な経験だったように思います。
コリーナ先生の日本語の授業では、研修生一人ひとりが英語と日本語を交えて自己紹介をしました。英語で相手に自分の思いを伝えることに悪戦苦闘しながらも、なんとかコミュニケーションをとるプロセスそのものが、きっと今後の生徒たちの宝物になるだろうなあと思いながら、頑張る様子を見ていました。
授業時間が 52 分だったり 55 分だったりと曜日によって異なることや、部活動がないので 15 時 10 分には学校が終わること、2 校時終了後 recess という所謂おやつ休憩の時間があることなど、日本とはずいぶん違う学校の環境は、さぞ刺激的だったでしょう。金曜日は 5 時間授業で終わりです。14 時 30 分下校。ゆとりがあります。

3. ニューカッスル市長表敬訪問

8 月 8 日（火）、緊張のニューカッスル市長表敬訪問の日です。生徒たちが市役所の 1 階で、プレゼンテーション用のリコーダーを用意し、今か今かとそわそわして待っていると、"Hello!"という明るい挨拶が後ろから聞こえました。とてもきれいな女性が現れ、とても気さくに我々に話しかけ始めました。これはたぶん案内の方なのだろうと思っていたら、コリーナ先生の「こちらが市長ですよ！」の一言で、一同驚愕。温かく優しい笑顔でわざわざ 1 階まで出迎えてくださいました。それから市長室に場所を移し、大いに歓迎していただきました。猛練習の成果でしょうか、リコーダーと歌のプレゼントも上々の出来で、大変喜んで頂きました。記念の帽子を全員分頂き、記念撮影をした後、「ここはあんまりおもしろくないわね。いいところに連れて行きましょうね。」と、隣接する市議会議場に皆を案内して下さいました。同行したステイ先のメリーウェザーの生徒たちも「こんなとこ来たことないよ！」という所で、議場に関するいろいろな説明を受けました。当初の予定より大幅に時間をとって下さり、40 分あまりの大変有意義な時間を過ごしました。

4. お別れパーティー

8 月 9 日（水）、ついに最終日です。校長先生と多くのオーストラリアの生徒を前にして、研修生たちは用意していた宇部市のプレゼンテーションと、音楽のパフォーマンスを披露しました。今までで一番の出来でした。拍手と歓声に包まれ、みなとてもいい顔をしていました。何人かのオーストラリアの生徒たちが、「みんなの英語、すごく上手でしたよ！」と言いに来てくれました。最後に校長先生がご挨拶の中で、「皆さん、自分のことを誇りに思って下さい。素晴らしかったです。」とお褒めの言葉を頂きました。たった 10 日間の研修でしたが、皆の成長をとても頼もしく感じました。

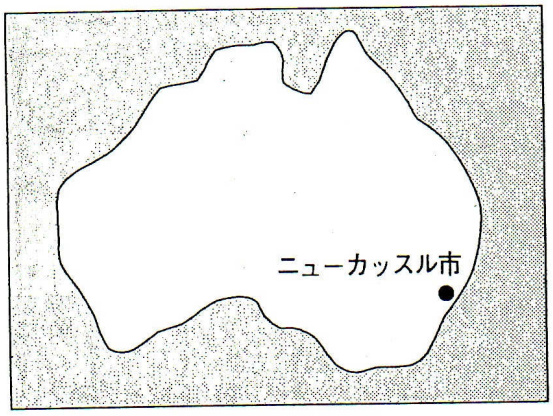
5. おわりに

私もホームステイをしました。いつも冗談を言って笑わせてくれたお父さんの Stephen さん。学校の日は必ずおいしいお弁当を作ってくれたお母さんの Moira さん。そして、メリーウェザー高校の生徒で日本語の勉強を毎日熱心に頑張っていた Louis 君。家族の一員として、本当に温かく迎え入れてくれました。ある日の夕方、Louis 君に日本語を教えていた時、「いえ」と「うち」の違いを質問されました。話題は house と home のニュアンスについての話になり、彼はこんな英文を教えてくれました。"House" is made of wood and beams, "Home" is made of hope and dreams.

オーストラリアにもう一つの home を得た 10 名の生徒たちが、今回の貴重な研修を通じて、新たな希望と夢をもって、さらに大きく飛躍していってくれることを期待し、研修の振り返りとしたいと思います。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい機会を与えてくださった宇部市、宇部市国際政策課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、宇部市教育委員会、そして研修派遣に携わって下さったすべての皆様に、心から感謝申し上げます。今後も宇部市とニューカッスル市の姉妹都市関係が末永く続き、両市がますます発展していくことを祈念しております。ありがとうございました。

ニューカッスル市の概要



ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東海岸部中央に位置し、シドニーの北東約 160ｋｍにあるハンター地方の首都で、人口約 15 万 5 千人（2009 年現在）、気候は温暖で、州内第 2 の産業都市です。

かつては、市内でも採掘されていた石炭は、製鉄所や造船その他の関連工業を興し、臨海産業都市として発展してきました。

市の北西約 100ｋｍの背後に広がる豊かなハンター炭田は、オーストラリアで最初に開発された歴史を持っています。

石炭による豊富な電力により、近年はアルミニウムや車両、化学製品などの産業が興っています。また、ハンターリバー流域は、農業や酪農が盛んであり、特にハンターワインは有名です。

市の中心部には、大学を始め高い水準の教育、文化、体育施設があり、さらに、美しい港、公園を有する都市で、毎年 200 万人の観光客が訪れます。

姉妹都市提携の背景

昭和 54 年（1979 年）3 月に定められた宇部市総合計画基本構想において、「国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開する」ことを掲げ、9 カ国 21 都市を候補として、調査・検討を進めました。

一方、市内主要企業においては、昭和 51 年（1976 年）以来石油にかわるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いていました。

このような情勢の中で、昭和 55 年（1980 年）7 月、22 人の市民有志による豪州親善視察団が、オーストラリアの数都市を視察調査し、帰国後、姉妹都市としてニューカッスル市が最適である旨の報告が提出されました。

その後、種々検討のうえ、同年 9 月、市議会の賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市を決定し、11 月 21 日にニューカッスル市において調印式を行いました。

主な交流経過

姉妹都市提携以来、教育・文化、青少年、スポーツ、経済等幅広い交流を行ってきました。この間、昭和 60 年（1985 年）には、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会が設立され、市民レベルの交流が活発に展開されるようになりました。

青少年交流については、昭和 61 年度から高校生研修派遣、平成 3 年度から中学生研修派遣が実施され、交流の重要な分野の一つとなっています。

文化交流については、これまで提携 10 周年、15 周年、20 周年、25 周年、30 周年といった節目の年に文化訪問団を派遣し、交流を深めています。

宇部市広報・シティセールス部
国際政策課

〒755-8601　宇部市常盤町一丁目７番１号
ＴＥＬ　０８３６－３４－８１３７
ＦＡＸ　０８３６－２２－６０８３
E-mail kokusai@city.ube.yamaguchi.jp